

ねぎ

農薬取締法上、「ねぎ」、「わけぎ」、「あさつき」はそれぞれ別の作物である。

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名			月											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春	ま	き			●	▲	▲	■						
					は種	定植	収穫							
夏	ま	き	■			●	●	▲	▲	▲	■	■	■	■
秋	ま	き		▲	▲	■	■			●	▲	●	●	
べ	と	病				——	——	——	——	——	——	——	——	——
さ	び	病				——	——	——	——	——	——	——	——	——
黒	斑	病					——	——	——	——	——	——	——	——
白	絹	病					——	——	——	——	——	——	——	——
葉	枯	病					——	——	——	——	——	——	——	——
ボ	ト	リ	チ	ス	葉	枯	症							
シ	ロ	イ	チ	モ	ジ	ヨ	ト	ウ						
ネ	ギ	ハ	モ	グ	リ	バ	エ							
ネ	ギ	ア	ザ	ミ	ウ	マ								

べと病

留意事項

- ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、3回以内。
- ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤はかぶれに注意する。
- アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。
- QoI剤 (11) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 排水を良好にする。
- 苗床の発病株を除去する。
- 被害葉を集めて、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) M5 【1000倍 14日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) M3 【600倍 14日／3回】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) 21 【2000倍 3日／4回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [リドミルゴールドMZ](#) M3 4 【1000倍 14日／3回】
 - ・ [ベトファイター顆粒水和剤](#) 40 27 【2000倍 14日／3回】
 - ・ [メジャーフロアブル](#) 11 【2000倍 前日／3回】

さび病

留意事項

- 1 春期と秋期の2回、気温が22℃くらいで雨の多い時に発生が多い。
- 2 菌は被害植物上で越冬する。
- 3 QoI剤 (11)、SDHI剤 (7) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害株を集めて、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発病前から下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 11 【2000倍 3日／4回】
 - ・ [ラリー水和剤](#) 3 【2000倍 7日／3回】
 - ・ [パレード20フロアブル](#) 7 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [カーニバル水和剤](#) M5 40 【1000倍 14日／3回】

黒斑病

留意事項

- 1 QoI剤 (11)、SDHI剤 (7) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。QoI剤は、予防効果の他、孢子形成阻害効果も示し、2次感染を防ぐ効果が期待できる。

防除方法

- 1 被害株を集めて、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発病前から下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1000～1500倍 14日／3回】
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M7 【2000倍 30日／3回】
 - ・ [アフエットフロアブル](#) 7 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 11 【3000倍 7日／3回】

白絹病

留意事項

- 注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
- 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 高温多湿時に発生しやすい。
- 2 SDHI剤（**7**）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 未熟な有機物の施用を避ける。
- 2 連作を避ける。
- 3 発病の恐れのあるほ場では、土壤消毒を行う。（XⅢ土壤消毒2（4） 参照）
 - ・ **バスアミド微粒剤**、**ガスタード微粒剤** 劇 **1**
 - 【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壤と混和する
は種または定植14日前/1回】
- 4 発病初期に下記の薬剤を施用する。
 - ・ **ロブラール水和剤** **2** 【500～1000倍 株元かん注 14日/3回】
 - ・ **アフェットフロアブル** **7** 【1000～2000倍 株元かん注 生育期（14日）/2回】

葉枯病

留意事項

- 1 病原菌はステムフィリウム菌である。
- 2 葉の先端部分に、はじめ白色の小斑点が発生し、その後、紫色～黒色で小型～中型の楕円形～紡錘形の病斑が形成される。
- 3 同じ病斑上に黒斑病やさび病など複数の病害が発生し、被害が大きくなることがある。
- 4 多湿条件で発生しやすい。
- 5 QoI剤（**11**）、SDHI剤（**7**）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にする。また、密植を避け、通風をよくする。
- 2 肥料切れしないよう、肥培管理に注意する。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ **プロポーズ顆粒水和剤** **M5** **40** 【1000倍 14日/3回】
 - ・ **アミスター20フロアブル** **11** 【2000倍 3日/4回】
 - ・ **カナメフロアブル** 劇 **7** 【4000倍 前日/4回】

ボトリチス葉枯症

留意事項

- 1 病原菌はボトリチス属菌である。
- 2 苗では黄褐色の葉先枯れ、定植後の株では葉に黄白色の小斑点を生じる。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 春や秋の比較的冷涼な時期に降雨が多いと発生しやすい。

防除方法

- 1 肥料切れしないよう、肥培管理に注意する。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブルール水和剤](#) 2 【1000～1500倍 14日／3回】

シロイチモジヨトウ

留意事項

- 1 発生初期の防除を徹底する。
- 2 葉の内部へ潜り込む前に防除を行う。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 3日／4回】
 - ・ [グレーシア乳剤](#) 30 【2000～3000倍 7日／2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【2000倍 7日／2回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
 - ・ [ベネビアOD](#) 28 【2000倍 前日／3回】

ネギハモグリバエ

留意事項

- 1 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤の成分ジノテフランの総使用回数は、4回以内（但し、は種時の土壌混和、育苗トレイへのかん注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元かん注は1回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計2回以内）。
- 2 A系統およびB系統（令和元年特殊報発出）の2種があり、B系統はA系統に比べて一葉あたりの幼虫数が多く、一葉に複数頭の幼虫が葉の内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害し、葉が白化したようになる。発生を認めたら、系統に関わらず、「ハモグリバエ類」「ネギハモグリバエ」に適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アクタラ粒剤5](#) 4A 【6～9kg／10a 作条混和 植付時／1回】
- 2 下記の薬剤をセル成型育苗トレイ（培土）に処理する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
【ハモグリバエ類 50倍 (0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5~4.0L)) かん注 定植前日~定植時/1回】
 - ・ [ベリマークSC](#) 2 8
【ハモグリバエ類 400倍 (0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5~4.0L)) かん注 育苗期後半~定植当日/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布または株元かん注する。
- ・ [グレースシア乳剤](#) 3 0 【ハモグリバエ類 2000~3000倍 7日/2回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【ハモグリバエ類 1000倍 7日/3回】
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500~5000倍 前日/2回】
 - ・ [ファインセーブフロアブル](#) 劇 3 4 【2000倍 3日/2回】
 - ・ [アグロスリン乳剤](#) 劇 3 A 【2000倍 7日/5回】

ネギアザミウマ

留意事項

- 1 高温少雨の条件で多発する。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 3 アクタラ粒剤5の成分チアメトキサムの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。
- 4 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤の成分ジノテフランの総使用回数は、4回以内（但し、は種時の土壌混和、育苗トレイへのかん注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元かん注は1回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計2回以内）。

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アクタラ粒剤5](#) 4 A
【6kg/10a 作条混和 は種時/1回】または
【6~9kg/10a 作条混和 植付時/1回】
- 2 下記の薬剤をセル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
【アザミウマ類 50倍 (0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5~4.0L)) かん注 定植前日~定植時/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ [ベリマークSC](#) 28

【アザミウマ類 400倍 (0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊
(約30×60cm、使用土壌約1.5~4.0L)) かん注 育苗期後半~定植当日/1回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。

・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 3日/4回】・ [アディオン乳剤](#) 3A 【アザミウマ類 3000倍 7日/3回】・ [アグリメック](#) 劇 6 【アザミウマ類 500~1000倍 3日/3回】・ [リーフガード顆粒水和剤](#) 劇 14 【1500倍 7日/2回】・ [ハチハチ乳剤](#) 劇 21A 【アザミウマ類 1000倍 7日/2回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。